

聖霊降臨節第 11 主日礼拝説教要旨(8 月 2 日)

『キリストの平和』 清瀬弘毅教師

ヨハネによる福音書 14:27

「平和聖日」を迎え、戦後 81 年、悲惨な時代を思い返し、平和を祈ります。

今朝の聖書は、主イエスが十字架に付けられる前の晩、弟子達に残した告別の説教の一節です。「わたしは平和をあなた方に残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない。心を騒がせるな。おびえるな。」

平和は、ヘブル語でシャローム。イスラエルの人達が互いに交わした挨拶です。主イエスは福音書の中で度々、シャロームをお使いになっています。

直訳すれば「平安の中に入りなさい」と言う意味です。主は御生涯の最後にも、「あなた方に平和を残す」と言われました。この平和は、この世が与えるように与えるのではないと語られます。主が残す平和は、「わたしの平和です」、「神の独り子としての平和」を残すと言われた。

この平和は人知では測る事が出来ない「神の平和」です。どのような苦しみの中にあっても、神の堅固な城壁の中に守られる平和です。こうした信仰を私達に与える為、主イエスが遺産のように与えて下さったのが聖霊です。

聖霊には、「いつもあなたと共にいて、どんな時にも、すべての事を益に導いてくださる方」と言う意味があります。主イエスが地上を去った後、私達を守る弁護者です。

父と子と聖霊なる三位一体の神の守りを約束されました。そして、この平和は、何より主イエスの十字架の御業を通して打ち立てられた平和です。だから、主の新しい掟、「わたしがあなた方を愛したように、互いに愛し合いなさい」を心にとめたい。そして、天国への希望と喜びを胸に、私達もキリストの平和を実現する者にされたいと願います。